

森のおくりもの11月



トンボの沢にて（太白山自然観察の森）



写真：菊池正行

めっきり秋の装いとなった自然観察の森ですが、今年は春の植物の開花から早め早めと推移してきた流れで、冬も早く来てしまうのではないかと考えております。良いのやら悪いのやらわかりませんが、少なくとも足早に冬へと移りかわっていることには間違いのないようです。冬までの短い秋のひと時を自然観察の森でのんびり過ごしてみたいはいかがでしょうか。

【館長 菊池正行】

+集まる丸い小さなカメムシ+ マルカメムシ



集団越冬という、センター横道路沿いの電信柱に何百も集まるテントウムシがこの時期の風物詩のようになっていますが、カメムシも集まって越冬する種類があります。

マルカメムシ【体長：約5mm】



形が「亀甲」のようなので「カメムシ」と言われる

天気の良い日にやすらぎの道を歩くと、トレイル沿いの植物の葉裏や、茎にぎっちり体を寄せ合って集まっている丸っこいカメムシ（マルカメムシ）があちらこちらにいます。少し葉に振れただけで、たくさん飛び出してきて服にくっついてきます。

どうやって集合するのでしょうか。

①匂い ②音 ③なんとなく

カメムシの●●には、危険を知らせるため（警報フェロモン）の他に、集団をつくるため（集合フェロモン）の働きがあると考えられています。

正解は①匂い 匂いを感知する触角を切ると集合できない

どんなところにいる

越冬するカメムシは、落ち葉や枯葉の間や、石の下、樹皮の隙間などにいます。また、屋内へ侵入してくる種類もいて、部屋が温まるとブンブン飛んで、目障りになることが・・・。

集まるのはなぜ？

カメムシたちの呼吸から生じるわずかな湿度と熱を逃げにくくして、温度・湿度を一定に保つための工夫だと考えられています。

【レンジャー：黒川周子】

*カメムシの警報フェロモンと集合フェロモンの物質は同じものですが、濃度が高く、突発的に放出されると「警報」、濃度が低く緩やかにでると「集合」の働きをします。

11月の生物ごよみ

太白山の秋も一気に深まり、山は鮮やかな紅葉につつまれ始めました。紅葉の進み方は昨年と比べ、2週間ぐらい早いようです。

木々の実りもほとんどが豊作だった中、ドングリだけはあまり実りませんでした。昨年在豊作だったからでしょうか。2年連続とはいかないようです。

草花も太白山で最後に咲く花『キッコウハグマ』が10月半ばから咲き始め、可憐な花を咲かせていました。リンドウも鮮やかな青の色でやすらぎの道で誇らしげに咲いていました。

この花が終わると来春のマンサクやセリバオウレンまで花はお休みになります。

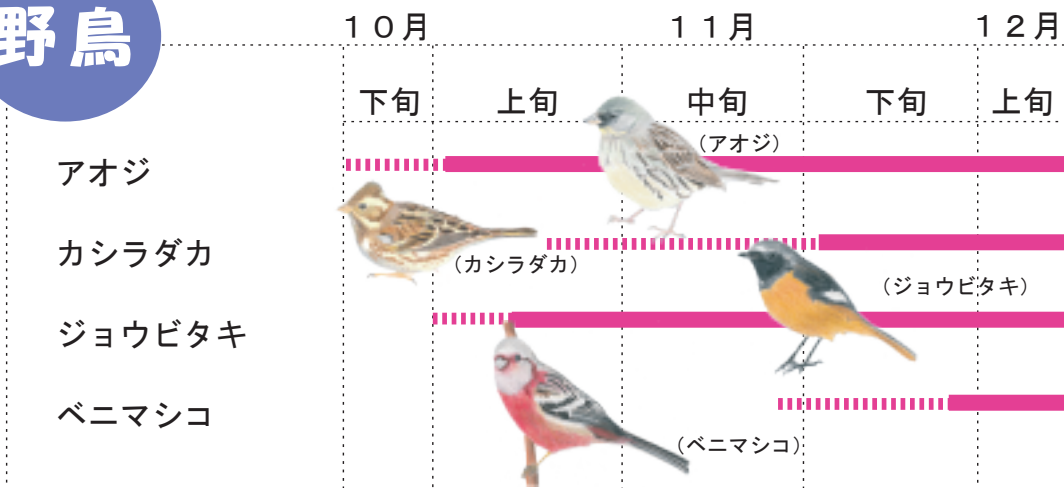
10月末頃、カモの池付近でアオジの群れに出会いました。冬鳥の一番手、ジョウビタキが確認できたのは今年は少し遅れ11月1日でした。木々の葉が落ちるとともにこれから続々と冬鳥たちがやってきます。バードウォッチングには最適な時期になってきます。

そうそう！センター前のエノキの木にオオムラサキの幼虫を見つけました。昨年はあまり見るができなかったのですが、今年は冬の観察が楽しみです。ゴマダラチョウの幼虫も混ざっていたので比べてみるといいですよ。

こんなふうに気づくと今年も終盤に入り、来月には冷たい雪が降り始めるかも。

太白山の自然にふれ、残り少ない晩秋を思い思いに楽しんでみてはいかがでしょうか。

野鳥



【レンジャー：齋 正宏】

このコーナーでは、森の中で見つけたかわいいものや不思議なものなど、ちょっと気になるあれこれを取り上げていきたいと思います。

はっけんメモ その18 『はじけ飛ぶ種』

植物は普通、種で仲間を増やします。植物の種を土に埋めると根っこが伸びて芽が出て、そして太陽の光を浴びてどんどん大きくなり、やがて花を咲かせ実をつけます。

実が熟すと、植物は実の中にある種を土の上に落とします。でも、ただ下に落としているわけではありません。植物だって今よりもっと居心地の良い場所に引っ越したいと考えています。植物は自分で動くことができないので、風の力や水の力、動物の力など自然の中にある様々な力を利用して種を遠くへ運びます。



風を利用



←動物にくっつく

生き物に
食べてもらう→



植物の中には、自分の力で種を遠くへ飛ばすことができる種類もあります。その名も**自動散布植物**。(自力散布や機械的散布とも呼ばれています。)

自動散布植物の仲間であるマンサクの実を、じっくり観察してみました。種を包む部分が乾燥してくると…

パチン！ひゅーん！
カラカラに乾いた実がはじけて、
中から何かが飛び出してきました！
小さくて黒い粒。種です！

マンサクの種はつるりとした滑らかで平べったい楕円形をしています。

種を包んでいた部分はよく見ると2重になっていて、外側（外果皮）は短い毛に覆われた薄くてやわらかな質感です。内側（内果皮）は厚目で強く（ペンチでも割るのが大変なほど強い）頑丈な作りです。

外側と内側の皮の間に詰まっていた果肉が乾燥すると、内側の強い皮が変形して種を弾き飛ばす仕組みのようです。種は皮が弾けたとき遠くまでよく飛ぶように、つるつる滑りやすい質感になっているんですね。 【レンジャー：河合 遥】



マンサクの花



熟す前の実

種が飛び出た後の実

※マンサク（マンサク科の落葉小高木）花期：3月～4月

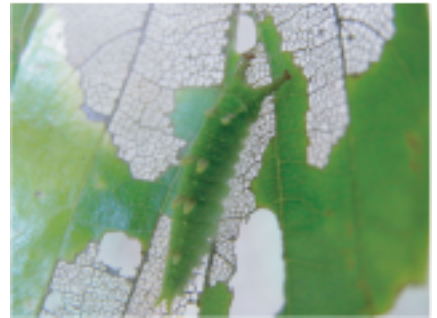
種は弾けるとき“パチンッ”という音がして、2メートル程度飛ぶことがある。

※自動散布植物は乾燥により弾けるタイプ他に、細胞の膨張によって弾けるタイプ（ホウセンカなど）がある。

新人レンジャーの観察日記

私が好きな言葉で二十四節気というものがあります。11月には立冬がありますが、その言葉を聞くといかにも冬の始まりのようなそんな気持ちにさせられます。枯葉だらけの園内を見渡すと夏の植物の繁茂が遠い前の記憶のような気もしてきます。夏にあれだけ鳴いていた虫たちも影をひそめ寂しい限りですが、そんな園内で来園者が思わぬ発見をしてくれました。観察センターの目の前の芝生広場にはエノキがありますが、その葉にちょこんとオオムラサキの幼虫がつかまっていたのです。しかし、成虫については、残念ながら今年私は見ることはできませんでした。唯一オオムラサキを見たのは、鳥かトンボに食べられた散策路に落ちていた翅の一部だけでした。それだけにオオムラサキの子どもたちに出会えたことにととてもうれしく感じました。

実はその日の午前中に、もしかしたら運良くオオムラサキの幼虫が見れるかもという淡い期待を持ってエノキの葉っぱとにらめっこをしていたのですが、全く見つけることはできませんでした。たった1cm程の体長の幼虫はどんな思いでこの場所までたどり着いたのでしょうか。卵から孵化した大勢の仲間と離ればなれになり、必死に葉を食べ成長し、ようやくここまで大きく育ってくれました。



【エノキの葉につかまる幼虫】

これから鳥やアリの捕食を免れて、やがて生まれ育ったエノキの木の根元まで小さな体で移動して、地面の枯葉に隠れるように越冬します。氷点下の夜も吹雪の日も春の訪れをじっと枯葉の下で待ち続けます。来年の春にはきっと慣れ親しんだ枯葉のベッドを這い出して、またエノキの木をひたすら登っていきます。力尽きて登れない仲間もいれば、外敵に捕食されて長いあの冬の越冬が一瞬で奪われてしまう仲間もいるでしょう。そう思うと生き延びること自体が奇跡のようでもあり、オオムラサキの美しい翅を持つ気品のある蝶に魅了されるファンが多いのも解る気がします。

【レンジャー：阿部 正明】



11月のイベント & お知らせ

◆「森とキノコの不思議観察会」

・キノコと森の生き物たちの世界をのぞいてみませんか？

【日 時】平成27年11月7日（土）10：00～11：30

【持ち物】歩きやすい服装、雨具

【申込み】不要（開始時刻までに観察センター前にお越しください。）

◆「森であそぼう！ちいさな野草教室」

・未就学児向けの草花遊びを中心とした自然観察会です。

【日 時】平成27年11月14日（土）10：00～11：30

【定 員】15名（未就学児とその保護者）

【持ち物】歩きやすい服装、雨具

【申込み】平成27年11月6日（金）9：00～電話で〔先着〕

◆「鉤取山ネイチャーウォーキング」

・紅葉の鉤取山を、講師のお話を聞きながらゆっくり歩きます。

【日 時】平成27年11月21日（土）10：00～15：00

【定 員】20名

【持ち物】歩きやすい服装と靴、昼食、飲み物、敷物、雨具（カッパ）

【申込み】平成27年11月7日（土）9：00～電話で〔先着〕



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日！

11月の開催日は1日、8日、
15日、22日、29日です。

開催時間：午前 10:00～11:30
午後 13:30～15:00

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。

◎15日の午後は、自然観察センター館長のご案内します。



表紙の絵や
原稿を募集
しています。

里山や自然に関するものを
描いて(書いて)ね！
レンジャーからのプレゼント
があるよっ！

イベント申込用



11月の休館日

2日、9日、16日、
24日、30日

♪森へおいでください♪



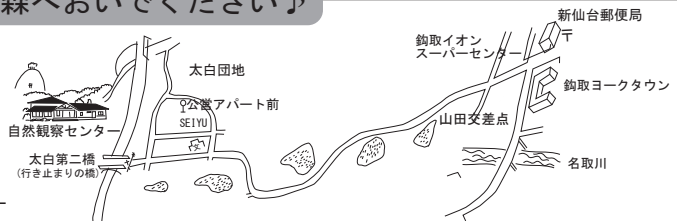
宮城交通バスの場合

仙台駅前バスプール7番 または 長町駅前から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



スタッフBLOG開始しました！
自然観察の森の最新情報、「森のおくりもの」
バックナンバーはWebでチェック！

2015年11月号（毎月1回5日発行）

発行：（公財）仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

E-mail: taihakan_moushikomi@sendai-green-association.jp

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>